

多世代居住コミュニティ推進ハンドブック 別冊

近居の体験談集

神奈川県

令和3年3月版

はじめに 近居の体験談集について

住まい方の選択肢の1つに、親世帯と子世帯が、各世帯のライフスタイルを尊重しつつ、困りごとがあった際には助け合える距離感に住まう「近居」が挙げられます。本事例集では、近居経験者の声や県内の自治体等の団体が実施している近況に関する制度などをまとめました。これから近居を始めようと考えている方々の参考になれば幸いです。

トピック1 近居体験者の声

近居の経験のある5名の方にインタビューを行い、みなさんが近居に至った経緯や近居をしてよかったと感じたこと、困ったことなどを以下の通りまとめました。

ケース1. 結婚を機に自分の両親と近居

(30代、女性)

○近居の経緯

結婚を機に実家を出ることになったのですが、将来、子育てをする上で両親の支援は必須と感じていたため、自分の実家からそう遠くないエリアで居住先を探しました。お互いのライフスタイルやプライバシーを確保するため、同居や日常的に往来できる超近距離は避けました。なお、近居に関する制度があることを知らなかったため、そのような制度は活用していません。

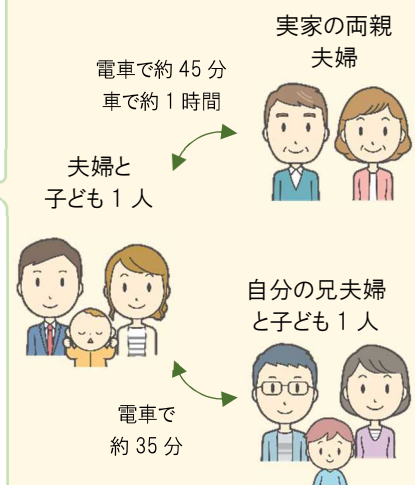
○近居をしてよかったこと

実家まで電車で45分ほどなので、月に1~2回のペースで両親に子どもを会わせることができます。このぐらいのペースだと、子どもの成長する様子を定期的に親に見せることができますし、自分の負担も大きくないのでちょうどよい距離感だと感じます。子どもの発熱時や、親が手術をした際に、双方にすぐ駆け付けられたのもよかったです。また、結果としてではありますが、自身の兄夫婦とも近居となり、子育て相談や子ども同士の交流ができることも嬉しいです。

○近居をして困ったこと

両親に子どもの成長する様子を見せてあげたいと思う一方、自身が家族と過ごす時間も大切したいというもどかしさを感じることがあります。また、会いに行きやすい距離にいることもあり、もともと電話等での連絡は多くなかったのですが、コロナ禍で会うことが制限された結果、自然と連絡頻度が少なくなってしまったことに少しさびしさを感じます。

～近居の状況～

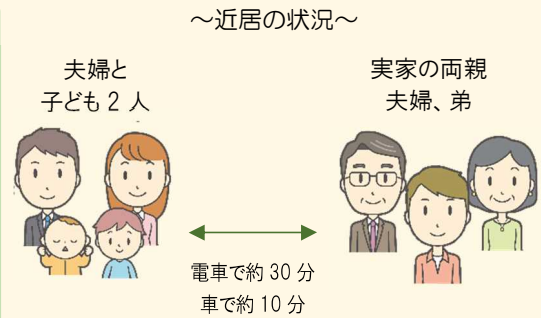


ケース2. 子育てのために自分の両親の近くに住むことを選択

(30代、男性)

○近居の経緯

結婚を機に実家を出て夫婦2人で暮らしていました。その時の居住地は、夫婦の職場を踏まえて選択したところ、実家から電車で10分程度の場所となり、結果として近居となっていました。その後、子どもができて生まれ、子育てに適した家に引っ越すこととなった際に、夫婦が共働きを続けるうえで実家が近い方が何かと都合がよいと考え、改めて近居を選択しました(電車で30分程度)。近居に関する制度があることを知りませんでした。



○近居をする上で考慮したこと

近居をするにあたり、有事の際に相互に行き来できるよう、実家まで車で概ね30分以内の範囲で居住先を検討しました。ただし、親世帯と日常生活圏は分けたかったので、最寄り駅やよく利用する店舗などが異なるエリアを探しました。その他に、職場へのアクセスの良さや、子育てに適した広さ・間取りの家であること、金銭面との兼ね合いを踏まえ、現在の住まいを決めました。近居を選択できたのは、職場が実家からそう遠くないことが大きく影響していると思います。実家と職場があまりにも遠い場合は、近居という選択肢はなかったかもしれません。事実、妻の実家が遠方のため、近居対象は必然的に自分の実家となりました。

○近居をしてよかったこと

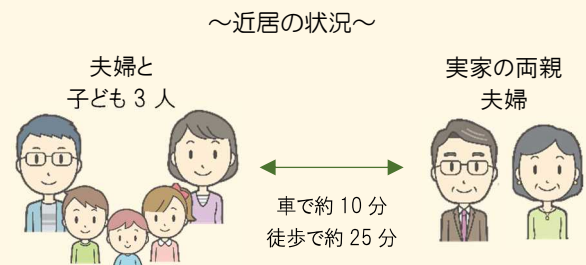
夫婦ともに、子育てで困った際に頼れる人が近くにいることへの安心感があります。子どもが0歳の時は毎週様子を見に来てくれましたし、最近も夫婦ともに外せない用事ができてしまった際に子どもの面倒をみてもらえたり、本当にありがたいです。最近、2週間に1回のペースで子供を連れて実家に行っています。

ケース3. 転勤に伴い自分の両親と近居

(40代、女性)

○近居の経緯

近居をする前は、実家から電車と徒歩で2時間程度の地域に、夫婦と子ども2人の家族4人で住んでいました。私が産休から復帰する際に通勤先が変わり、転居の必要が生じたため、通勤圏内である実家との近居を選択しました(車で10分程度)。近居に関する制度があることを知りませんでした。近居のためではなく、転勤に伴う転居だったので、知っていても活用しなかったかもしれません。



○近居をする上で課題となったこと

転居先として検討していたエリアが、保育園の入所激戦区だったため、子どもの入園先を確保すること、保育園への入所手続きを行うにあたり、転居の数か月前に新住所を確定しておく必要があったため、そのことに苦労しました。

○近居をしてよかったこと

子どもが急に発熱したり、けがをした際は、両親に保育園や小学校への子どものお迎えをお願いすることができました。近居をしていて困ったことや想定と違ったことは特にありません。

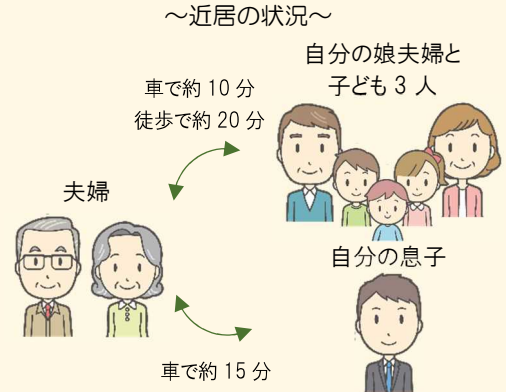
ただ、コロナ禍においては、職場や学校に通勤、通学するなど、自分たち家族の方が感染リスクの高い生活を送っていたため、両親との食事などは控えざるを得ませんでした。保育園や学校が休園、休校になった際も、両親に子どもを預けることはせず、私や夫が家にいるようにしました。

ケース4. 娘夫婦が転勤を機に自分の近くに転居

(70代、男性)

○近居の経緯

現在、自分の娘夫婦、息子と近居をしています。
娘夫婦は、以前は湘南地域に住んでいましたが、勤務先が都内
に変わったことをきっかけに、相互に通いやすく、緊密な関係でいら
れるようにお互いに近居を希望し、娘夫婦が私たちと同じ市内に
引っ越すことで近居の実現に至りました。
息子は、勤め先が市内であることもあり、結果として近居となって
いる状況です。近居に関する制度があることは知りませんでした。



○近居をしてよかったこと

娘夫婦は共働きのため、仕事の都合で早朝出勤をしたり、帰宅が遅くなるのですが、近居をしていると、
私たちが娘夫婦の代わりに、孫たちの保育園等の送り迎えや緊急時対応を行うことができます。体調がよくない時な
ども助け合うことができるので、お互いに不安が解消されているのではないかと思います。
また、お祝いごと等のイベントをみんなで一緒にすることで、喜びを分かち合えるのもよいですね。なにより、私たち
夫婦にとって、子どもたちがそろってかけがえのない環境を作ってくれたことが本当に嬉しいです。

○近居をして困ったこと

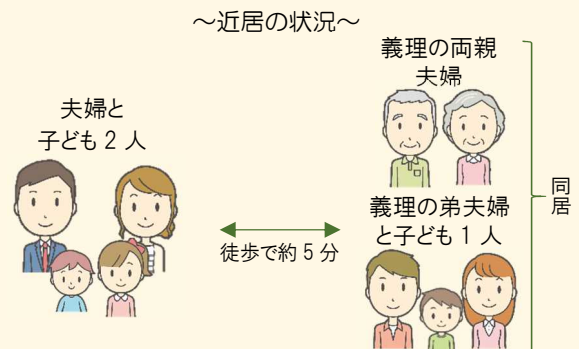
私たち夫婦は、近居になって困ったことは一つもありません。このコロナ禍でも、お互いに近況を共有することで、
適切な対応ができていますと感じます。

ケース5. 子育てのために義理両親と近居

(40代、男性)

○近居の状況

私たち夫婦は共働きのため、結婚当初から1人目が生まれ
るまでは、私と妻の職場の中間地点に住んでいました。
当時は近くに相談できる身内や友人があまりいませんでした。
2人目が生まれるタイミングで、妻がここでの子育ては
無理だから実家の近くに住みたいと言ったため、妻の実家
(両親と弟家族が同居)から徒歩5分の場所で近居すること
になりました。近居に関する制度は活用していません。



○近居をしてよかったこと

私たち夫婦の仕事が遅くなる時など、義理の両親に子どもの面倒を見てもらえて助かっています。妻も心配事がある
と、すぐに義理の母(妻の母)に相談できるようで、大変喜んでおります。いざという時に、頼れる家族が近くにい
るというのは大変ありがたいです。また、子どもたちも義理の両親と接する機会が多くなり、義理の両親からたくさん
の愛情を受けて育てており、嬉しいです。私自身も近居することで、義理の両親や義理の弟家族とのコミュニケーション
が増え、楽しく過ごしています(2か月に1回程度、食事会を実施)。

○近居をして困ったこと

妻の実家の近くに引っ越すことにより、私の通勤時間(電車で1時間30分)が長くなったことです。ただ、みんな
喜んでるので、私が多少我慢すればいいのかなと感じています。最近テレワークの機会も増えたので、通勤時
間の負担は多少軽くなりました。また、子どもたちが義理の両親のところへ遊びに行く機会が多くなり、負担をかけ
すぎているかなという心配もあります。しかし、義理の両親の私たち夫婦への気遣いにより、程よい距離感を保って
いるのも事実であり、それほどストレスを感じることなく、日々過ごせています。

トピック2 近居を支援する制度の例（概要）

県内の自治体等の団体が実施している近況に関する制度を以下の通りまとめました。なお、各種制度を活用する際の要件等は、自治体や住宅金融支援機構のHPを参照してください（参考に記載したHPのURLは2021年2月時点のものです）。

制度例①同居または近居に関する奨励金を交付

【制度概要】

子世帯が、既存の住宅を増改築して親世帯との同居を始める場合や、新たに住宅を取得して親世帯と同じ町内で近居を始める場合などに、子世帯に対して奨励金を交付する制度。

【県内の実施自治体(例)】

- ・二世帯同居等支援奨励金交付制度(松田町)

参考:松田町 HP(<https://town.matsuda.kanagawa.jp/site/teiju-syoushi/h27nisetai.html>)

制度例②同居または近居のための住宅取得費用の一部を補助

【制度概要】

子育て世帯と、その親世帯が市内で同居、近居するための住宅取得や、同居のためのリフォーム費用の一部を補助する制度。

【県内の実施自治体(例)】

- ・親元近居・同居住宅取得等支援事業補助金制度(厚木市)
- ・三世代ファミリー一定住支援補助金(住宅取得補助金・リフォーム工事補助金)(綾瀬市)

参考:厚木市 HP(https://www.city.atsugi.kanagawa.jp/shiminbenri/kurasi/jyuutaku_akiya/seisaku/teijuu/d040941.html)

綾瀬市 HP(<https://www.city.ayase.kanagawa.jp/hp/page000028300/hpg000028293.htm>)

制度例③同居または近居のための住宅取得にかかる金利を引き下げ

【制度概要】

地方公共団体と住宅金融支援機構が連携することにより、子育て世帯が「フラット 35(子育て支援型)」で借入れを行う場合、所定の要件を満たすことで、地方公共団体による補助金交付等の財政支援とあわせて、借入金利を一定期間引き下げる制度。

【県内の実施自治体(例)】

横浜市、川崎市、厚木市、中井町、松田町、山北町

参考:住宅金融支援機構 HP

(https://www.simulation.jhf.go.jp/flat35/flat35kosodate/index.php/Index_tree/execute?actionKey=14&area-chiiki=&pref-chiiki=)